

## コスミックカーボン SLR リアリムの交換

### 必要なツール

- スポークレンチ M40001
- R2R スポークレンチ (101 295 01)
- マヴィックテンションメーター 995 643 01 および対応するテンション表示換算表

スポークの中心にある金属板には、色付きのドットが貼られています。スポークを組み立てるときは、このドットが常に見えるようにしておく必要があります。

- 緑のドットはフリーホイール側スポークを表します。
- 赤のドットはフロントとリアの反フリーホイール側スポークを表します。

**注意：スポークニップルを締め付けると、ハブフランジの反対側にも影響します。テンションの調整時は、スポークニップルの1回転で通常のホイールでの2回転分、スポークのテンションが上がると考えてください。**



フリーホイール側



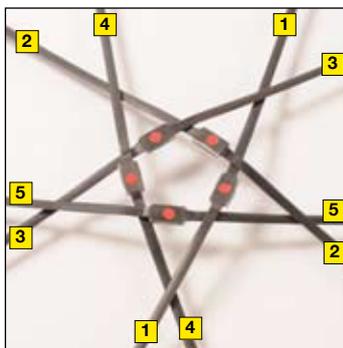
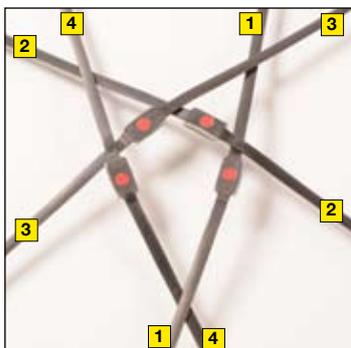
反フリーホイール側



リムの左右を確かめるには、スポーク穴の形状を見ます。スポーク穴がカーボンフラップの角に近い方がフリー側です。

反フリーホイール側から作業を始めます。バルブの穴を手前にして、スポークをバルブ穴の右の最初の穴に取り付け、そしてもう一方の端を反時計回りに数えて11番目のスポーク穴に取り付けます。

2番目のスポークを反時計回りに数えて、バルブ穴の右の5番目のスポーク穴に取り付けます。このスポークのもう一方の端は、バルブ穴の右の15番目のスポーク穴に取り付けます。

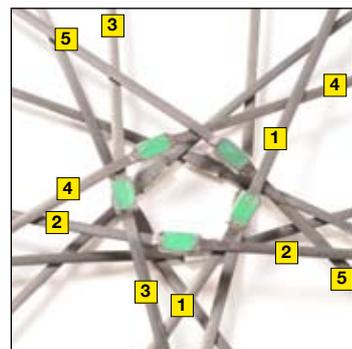
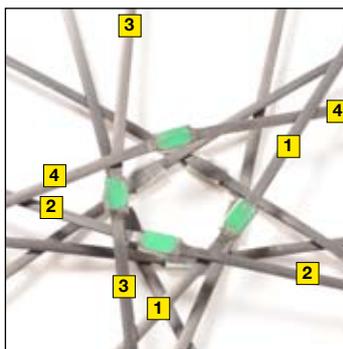


3番目のスポークを反時計回りに数えて、バルブ穴の右の9番目のスポーク穴に取り付けます。このスポークのもう一方の端は、バルブ穴の右の19番目のスポーク穴に取り付けます。

4番目のスポークはバルブ穴から右へ13番目のスポーク穴に通した後、2番目と3番目のスポークの上と最初のスポークの下を通して取り付けます。このとき、もう一方の端は3番目のスポーク穴に取り付けます。

5番目のスポークは、バルブ穴から右へ17番目のスポーク穴に通した後、3番目と4番目のスポークの上と、最初と2番目のスポークの下を通して取り付けます。このとき、もう一方の端は7番目のスポーク穴に取り付けます。

ホイールを裏返します。バルブ穴の右の最初のスポーク穴にスポークを取り付けます。このスポークのもう一方の端は、反時計回りに数えて11番目のスポーク穴に取り付けます。



2番目のスポークを時計回りに数えて、バルブ穴の左の4番目のスポーク穴に取り付けます。このスポークのもう一方の端は、バルブ穴の左の14番目のスポーク穴に取り付けます。

3番目のスポークを時計回りに数えて、バルブ穴の左の8番目のスポーク穴に取り付けます。このスポークのもう一方の端は、バルブ穴の左の18番目のスポーク穴に取り付けます。

4番目のスポークは、バルブ穴から左へ12番目のスポーク穴に通した後、最初のスポークの下、次に3番目と2番目のスポークの上を通して取り付けます。このスポークのもう一方の端は、バルブ穴の左の2番目のスポーク穴に取り付けます。

5番目のスポークは、バルブ穴から左へ16番目のスポーク穴に通した後、2番目と最初のスポークの下、次に4番目と3番目のスポークの上を通して取り付けます。このとき、このスポークのもう一方の端は、バルブ穴の左の6番目のスポーク穴に取り付けます。



すべてのニップルを、ロックが始まるまで締め付けます。



ハブをスポークの中心に取り付けます。

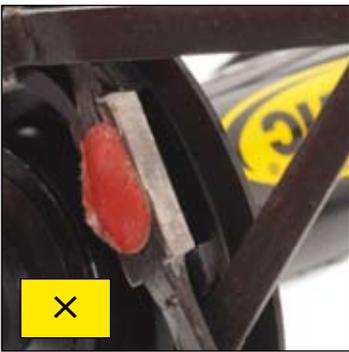


ハブフランジのスロットにスポークの金属部分を取り付け、次に反対側にも付けます。

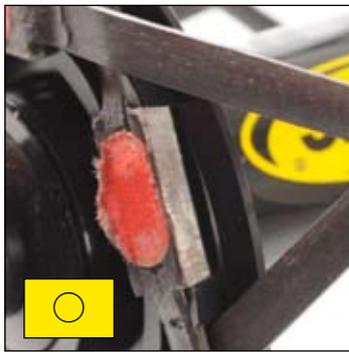


カーボンリムフランジ内のスポークヘッドを固定ツール 101 295 01 で押さえて、ホイールのテンションを最終的に調整します。

この固定ツールは、十分にスペースがある方から通してください。また、無理に押し込まないようにしてください。



プレートがハブボディに密着しているか確認します。密着していない場合は、ハンマーで軽く叩いて密着させます (力の入れ過ぎには注意してください)。



ハブキャップの固定用の爪を 1 つずつ留めて取り付けます。ハブキャップの返しが、各プレートの上の正しい位置にあるか確認します。

p. 5 にあるスポークテンションに従ってテンションを最終的に調整し、ホイールのセンタリングを行います。スポークニップルは ABS なので、スレッドロックは不要です。